

# 屋久島ヨリノ上書

山本秀雄

屋久島ヨリノ上書は慶応元年（一八六五）九月、安田鞆藏と屋久島奉行有川壯一、川上助八郎の両名から藩庁に提出されたものと思われる意見書で、内容は

- 一、安田鞆藏屋久島ヨリノ上書
- 一、有川壯一、川上助八郎上書（口上覚）
- 一、手控
- 一、川上助八郎書添
- 一、その他『言上書』

（当時の屋久島奉行有川、川上の両名が安田から鑄銭の趣など聞き記した）の五項から成っている。

手控によつて察するに、安田鞆藏の処遇、同氏の語る財政確立の道、鑄銭の問題点、幕府の許可で諸国で鑄銭が始まり、「琉球通宝」も天下に通用する貨幣としてその道が開かれている、屋久島でこれが鑄銭をするようお願いした意見書で、大半「琉球通宝」のことが記されている。

屋久島改革の任に当たる両奉行が、屋久島に幽居する安田鞆藏『島津齊彬言行録』によれば安田は万延元年（一八六〇）より、薩摩の江戸屋敷に勤めた大阪の眼医者で、幕府の勘定奉行小栗上野介との親交をたよりに鑄銭の許可を得、これが指導に当り、又自ら製造

を請負ったが、故あって文久二年（一八六二）に屋久島に幽居を命ぜられた」と接する中で屋久島改革復興問題と薩摩の当時の時代的要求、安田の「琉球通宝」鑄銭の願望と二様の思惑がからんで意見書の提出に至ったものようであるが、勿論許されてはいない。尚製造場所を屋久島としたは直轄地という外、琉球との中間地という意味もあつたのか、知りたいところである。

又上書は鑄銭のことにとどまらず、産業面にも及び鯉節、綿、養蚕、タバコ、綿服製造や肥料のこと、更に病人対策の民生面まで深く考察されたものである。以下紙面の許す範囲で本文を紹介する。（原文のママ）



琉球通寶と天保通寶



※本文と直接的な関係はありません

# 安田轍藏屋久島よりの上書

私儀

当島之差違さしつかわされ候せうろうに付つき、訳合わけあひは全く存ぞんじ奉まうず候得共とも、恐入おそいり奉り万事謹慎きんしん罷在候ありまほ處、此度川上助八郎、有村壯一兩人より何成ななりり存含ぞんかみみ候儀も之れあり候えば申上候様、申くれ候二付重々恐入奉候得共、右様申くれ候儀、至極しごく忝かたじけなく存候故、幽居ゆうき同様之身分をも顧かみみず、此上なく恐縮おそまじく奉り候得共建言けんげん奉り候。

方今宇内之形勢ヲ伝聞仕候得バ、實以不容易機會ト奉存候、別テ物価頻ニ騰貴仕、人心動搖シテ不止、日追治亂之經界ト相成、各國鄰テ富国强兵之策ヲ起立シ、非常之備ヲ設、練武之術盛ナル由ヲ伝聞仕候二付、他邦ハ差置当御国家之儀ニ付、深ク歎息仕候儀御座候得共、私如不調法者之以筆紙胸中苦満ノ儀ヲ不殘奉言上候儀ハ、逆モ不相叶候得共存候九牛之一毛ヲ奉建言候、其一儀ハ琉球通宝ニ御座候、此通貨元來内寅ハ天下通用無差支為致可申積ニテ、既ニ私製造起立仕候節モ毎月雜用相除、全御利潤之処金六萬貳千五百兩宛上納仕、卷々年ニ付金七拾五萬兩全御利益上納可仕申上置候處、鑄錢場所為見聞、当島江御内用之由ニテ被差遣候得共、實ハ別段奉承知候儀モ無之、空敷消光罷在候ニ付、既ニ昨子年（元治元年）七月有村壯一ヲ以奉差上候歎願書面ニ巨細奉申上候通、苦心因勞仕、右通宝首尾能御届濟為致候ニテ、第一專要仕候處ハ右通宝天下無差支通用相成候儀ニ御座候、是私鑄錢起立ノ元來宿意ニ御座候故、萬事右ニ基諸方示談取組仕候得共、何力当御國律ニ不為叶候儀有之候故、私身上當時之通被仰付候儀ハ奉恐察候、扱右製造請負不仰付候儀ハ無是非モ儀ニ奉存候得共右通宝他國通用不致候テハ無此上御國害ニ相成候ニ付、乍陰頼リニ歎息仕候、別テ半朱製造ノ儀ハ松岡十六夫加

藤平八等江御國江着任候節申決候迄ニテ、實ハ琉球通宝天下通用相成可申迄ハ、談話ニモ他邦江ハ不仕候位ノ儀ニテ、琉球通宝之四字

公然ト天下御免許之惣觸レ相濟候上製造可仕合に御座候、処右根末

二走候、御所置乍恐広大ノ御國害ト相成候儀ハ、私當時屋久島ニ幽居罷在候ニ付当島ノ振合ヲ以、御國害ニ相成候現事左ニ奉申上候

一、當時銅地金並ニ錫鉛トタン等之売買相場ノ儀、全不奉存候得共私存府ノ節ヨリ三双倍程騰貴仕候處ニテ、半朱壹枚代錢七拾八文

位ニテ出来可仕哉ニ奉存候事（此儀ハ凡此位ニテ出来可仕候ノ儀ニ候等如）

一、半朱壹枚ニ付錢七拾八文ニテ出来候得バ、當時壹枚貳百七拾八文ニ御払相成候得バ金一枚ニ付貳百文ノ御利益トナル、

一、經節拾貫目代三拾五貫文ニ御買入相成候此半朱百二拾四枚ト錢百三拾四文也

此半朱一枚七拾八文トシテ拾貫貳百文也、右ヲ三拾五貫文ニ通用被仰付候間、全貳拾四貫八百文ノ御利益トナル。

一、經節於御當地目方拾貫目七拾貫文ニ御拂ナル此半朱貳百四拾八枚ト錢貳百六拾八文トナル。

此半朱一枚七拾八文ニ見テ貳拾貫四百文トナル

右ニテ全ノ御損四拾九貫六百元トナル

前出貳拾四貫八百文ノ御利益アリ、

後入四拾九貫六百元御損トナル、

此處ニテ前後并競見テ全貳四貫八百文御損トナル、

此一条右之通ニテ又此半朱ヲ御拂被為遊候得バ一枚ニ付貳百文ノ御利潤トナル、又是ヲ上納ニナレバ一枚ニ付貳百文ノ御損トナル、如是シテ出入無益ノ上屋久島奉行在番始当島詰役若勞金、村々庄屋御心附等部テ散ジテ不返財ニシテ、其上売買御品物非常損シ、且ハ破船等ノ御損失是皆賣テ不經財ナリ、既ニ破船モ昨年來數度御座候由承及候都テ此一条虛唱ニ御利益現レ、其実ハ紙札同様ノ貨物反復

往來ノ中現ニ此算ヲ被為遊御覽候得バ、勞シテ無功シテ己ナラズ、  
勞シテ有損事如是ニ御座候、尤当百錢連モ大同小異ニシテ何分私始  
存込候様天下通用無差支不相成候テハ全ノ御損ト相成候テ己ナラズ、  
御領内ノ正金銀ハ不殘他国江出シ尽、万一非常ノ節甚御用途ヲ被為  
欠候様ノ儀モ可有之候哉ト深ク歎息仕儀、尤屋久島ノ儀ハ現二三拾  
五貫文ノ品ヲ御買入相成候テ七拾貫文ニ御払被為遊候テスラ如前文  
御損失過分ノ事ニ御座候処、増テ二割三割ノ眼前御利益ハ都テ広大  
ノ御損失ト相成候故、乍陰私儀ハ氷肝寒心罷在候、伏テ奉願上候ニ  
ハ是非々々琉球通宝天下無差支通用相成候様御苦勞被為遊度奉念願  
候、尤琉球通宝他国通用差支候テハ紙札ノ方反テ御益ト奉存候、然  
ル処千辛万苦仕公儀御屈濟為致候無甲斐モ、乍恐此処御聞不為遊頻  
ニ御製造被為遊候得バ、御領内ハ実ニ正金拂底相成紙札同様之通貨  
充満可仕儀ハ勿論、其上右通宝充満仕候ニ引連、自然ト價位漸々下  
落仕既ニ當時表向ハ金壹兩代錢九貫文ニ御定被為遊候得共、内実ハ  
正金壹兩ヲ以琉球通宝拾四五貫文ニ交易仕候由伝聞仕候、此儀実ニ  
甚歎ケ敷奉存候、右通ニテハ別テ他国ヨリ御領内ハ物價騰貴可仕訳  
合左ニ奉申上候、

一、於大阪表當時金壹兩代銀百五匁位ト伝聞仕候、且錢壹貫文代錢  
拾六匁位ト伝聞仕候、左候得バ於大阪表金壹兩為銀百五匁ナリ、  
又金壹兩為錢六貫五百六拾文ナリ、譬於大阪表錢六貫五百六拾文  
ノ品物ヲ買、是ヲ御国元ノ琉球通宝市中相場金壹兩代錢拾四貫五  
百文ト見テ、右大阪表買品物江高利運賃損物金利雜用見込四割ヲ  
カクレバ、於大阪表錢六貫五百六拾文ノ品物忽式拾貫三百文ト相  
成候、此処ノ道理乍恐能々御玩味不為遊候テハ、日夜ニ物価騰貴  
仕候事銀札通用無御座諸国ニ引競候得バ三双位余ト相成候間、乍  
陰私儀ハ見聞仕候ニ不忍奉存候間重々奉恐縮候共奉建言候。  
右故琉球通宝之四字天下通用御免許表向有之候迄ハ半朱製造不仕

候儀ハ勿論談話ニモ他国江ハ不仕候位ノ処、十太夫平八等江申決候  
ニ付御製造相成候上ハ無是非モ儀ト奉存候間此上ハ一日モ早ク琉球  
通宝之四字天下公然ト通用相成候様、御手ヲ被為召附候様乍恐奉念  
願候、左候得バ現存右通之御損ハ無御座広大之年々御国益ト奉存候  
間私存合候琉球通宝天下通用御免許相成候道筋左ニ奉申上候。  
一、元來於公儀ハ琉球通宝天下通用為致候儀ハ甚不相好候儀ニ御座  
候得共、右通宝通用相成可申候様御免許可有之筋ハ至極密々公儀  
其筋御役方江示談仕置候談話ノ道筋巨細左ニ奉申上候。

一、近來物價頻リニ騰貴仕候儀ハ異国交易シテ己ノ儀ニハ無之候、  
其訳合ハ享保ヨリ度々儉約ノ策起リ、第一衣服ノ制度相起リ候処  
松平越中守様ヲ始トシテ眼前ノ議論ニ迷ヒ甚大義ヲ失ヒ給、別テ  
歎息仕候其儀ハ元來本朝ニハ草綿ノ種、無之候故古昔ハ麻葛ノ類  
ニテ衣服調度仕候由伝聞仕候、然ル処度々古來綿種ノ異国ヨリ來  
船仕本朝諸国江植シ由伝聞仕候得共、植作ノ法全不伝候故ニ御座  
候哉、兎角繁昌不仕候由伝聞仕候、既ニ衣笠内府ノ知歌ニ

シキシマノヤマトニワアラヌカラヒトノ  
ウエテシワタノタネワタエニキ

尚此外証拠ト仕候儀、種々御座候得共、何分植作ノ法全不伝候故、  
數度綿種舶來候得共昔此品甚扨底仕候由伝聞仕候、然ル処中古綿種  
並ニ植作ノ法全相伝仕候由巨細証拠ト仕候儀御座候乍去右綿種ヲ以  
頻リニ無分限諸国ニ植作可仕候者一向申伝連モ無御座候、且又古來  
申伝候ニハ於本朝養蚕ヲ以至極貧民ヲ多分ニ救助仕來候由ニ御座候、  
尤右養蚕ノ儀モ異朝ヨリ伝來仕候処其種其製寒国ニテハ朝鮮種ヲ製  
養シ、暖国ニテハ王氏種ヲ養蚕仕、又寒暖国共ニ合蚕ヲ製養仕候由ニ  
御座候、処方今製作仕候蚕種ノ儀ハ右三種ノ内何レノ種ト実ハ慥ニ  
定ガタク相成候上製作モ於本朝ハ東西南北ニ隨、寒暖モ不同、風土  
モ異候故ニ御座候哉、諸国共ニ製作モ相變ジ唯今ニ至リ候テハ右三

製ノ儀ハ全不分明ニ相成候得共、養蚕製作共至極地風逢候、妙處ニ至候哉、當時自本朝出産仕候処ノ素糸ハ支那朝鮮等ヨリ産出イタシ候素糸ヨリ遙ニ價料相勝候由異国人ヨリ伝聞仕候、尤右養蚕ノ儀ハ国々ニテ製作仕候得共、其別テ多分製作仕出産相成候ハ奥羽・甲信・常野・總武・相駿・三越・三丹・江濃・飛遠・豆腐・石播其余国々ニモ小々宛ハ諸国共養蚕仕候、尤何レニテモ山林又ハ屋敷居廻リ等トテ米豆穀作ノ障リニ不相成候場所見立桑ノ木植付置右桑ノ葉ヲ以養蚕仕候儀ニ付、一切穀物減シ方ニ不相成、衣服ニ製造仕候ニモ貧民ハ右養蚕仕候、素糸ハ売其代料ニテ綿布買入衣服調度仕居候処、松平越中守様御老中御勤役中急度衣服ノ法度嚴重被仰渡、天下四民ノ無別一統綿服ト申候事ニテ、若右令ニ相背候得ハ曲事タル由、法度被申渡御用ノ外養蚕停止相成候処諸国ニテ綿作不相成候、寒郷之貧民ニ至リ候テハ作地連モ所持不致候者共ハ、漸自分屋敷居廻リニ數株ノ桑ノ木ヲ植付置年々右桑ノ木ノ以葉漸ク復計ノ素糸ヲ製シ右ヲ売払乍漸其代料ヲ以綿布買入衣類ニ仕取続古來罷在候処前文通天下一統綿服ト相成候儀ニ付、素糸製作仕候事不相成候故俄ニ衣類ノ道路断果至極ノ貧民ハ困窮迷惑仕候由伝聞候、扱此節迄ハ草綿植作仕候国々連ハ漸五畿内ノ中ニ小々草綿植作仕其余連モ漸復計ノ事ニテ都テ取合式百萬石位ノ処、越中守様御所置ニテ諸国一統草綿植作勝手次第ニ相成候ニ付、俄ニ良田畠江綿植候間耕作ニ相用候肥養ノ品物、干鰯、油粕ヲ始都シテ田畑工肥養ニ相用候品々忽騰貴仕候事三倍余ニ相成候、元來綿作ノ儀ハ五畿内ノ中ニテモ、至極膏良ノ地工綿植仕候テハ水流等ニ不自由等ノ申立ニテ植付仕候処、右様諸国一統綿作仕候様相成候テ前文ノ通、干鰯油粕ヲ始肥養ニ相用候萬物高價ニ相成候ニ付、右高價ニ相成候品物を相用ヒ萬物植付仕候故、自然ト一切ノ品物騰貴仕候、糸口始テ此時萌若ヲ出シ候処尚此江眼ヲ不附弥眼前ノ論ニ迷、云々（以下省略）

## 有川壯一、川上助八郎上書

乍恐口上覚

私共式

御直ニ建言仕候儀實以恐多借踰之罪難逃奉存候得共存合候儀空敷黙止罷在候テハ却テ不忠ノ至ニ奉存候間不顧多罪言上仕候

一、屋久島御改革被仰渡候砌ヨリ壯一儀ハ御目付ニテ掛被仰付度々下島仕候処難有御役被仰付、猶亦当春ヨリ在番ニテ下島仕居助八郎儀ハ此涯下島仕壯一申談御改革方御用取扱仕候様被仰付當七月初旬罷下候ニ付万事談合、猶亦島中榮勞情態篤与見聞仕候処近來山床遠方罷成出産平木モ十分調兼産物連ハ鰹節ノ外銀高二相及候品物無之島中致困窮、別テ難洪仕居候折柄御改革被仰渡候ニ付テハ難有

御仁恵ニテ米豆其外万品御仕下ノ上拝借被仰付且昨年来鰹節御買入過分御利益相成候訳ヲ以別段御下ケ金被成下 猶亦人少ノ島柄故生子養育料迄モ可被成下段承知仕重疊難有

御趣意一同奉汲受居候處當時諸品別テ高料ニ罷成既ニ米菘石代錢六拾貫文餘ニ騰貴仕候得ハ万品右ニ準ジ鰹節之儀モ拾貫目代錢七八拾貫文以上ニ御売立相成島許ニ才ヒテ御買入三拾五貫文ニテ御座候得ハ拝借御品物代引負罷成一同ノ人氣モ潰レ罷在候ニ付今少々御買入直増ニテモ被仰付候ハバ可然哉ニ吟味仕候得共何分、釣高限有ル鰹節ニテ御座候得ハ當時高價ノ御品物代ニ比競仕候時八年々歳々拝借代高引負可罷成バ案中ニテ一紙總ノ表ニハ、過分ノ御利益ニ相見得申候得共其実ハ名目計ニテ、別テ心苦仕今形ニテハ永統仕往々御益筋罷成島中苦情不申立様潤色相立候處無覺東奉存候間御救助ノ儀御利潤ニ不相拘候ハバ段々取扱ノ道承得候趣モ御座候得共當御時節柄、莫大ノ御入價被為追屯候儀ハ乍恐承見仕候間右通ニテモ不被為濟御砌、亦御益筋相成候様取扱仕候得ハ島民共窮迫ノ時機ニ成立、前後両全ノ趣法工夫勘考仕兼素ヨリ不肖ノ私共、云々（以下省略）